

‘地元に戻ろう’基礎講座 授業概要

文責 田無スマイル大学 富沢木実

2日目 (12月22日)

先輩の話を聞いてみよう (1)

この日は、次の3人の先輩たちのお話をうかがいました。

1. 水井高志さん (NPO 法人西東京花の会)
2. 池田干城さん (西原自然公園を育成する会ほか)
3. 青山恭彦さん (きらっとシニア倶楽部ほか)

水井さん、池田さんは、地域での活動が長い方々。青山さんは、はじめてまだ数年の方。それぞれ地域への係り方にも特徴があって、大変興味深かったです。(私の技術レベルの問題から、ワープロと写真がずれるので、一つひとつのファイルにします。)

1. 水井高志さん (NPO 法人西東京花の会)

(ア) 西東京花の会とは

- 西東京市には、公園が200ヶ所くらいある。うち40ヶ所の公園花壇で花を育てて植え、管理している。毎年3万株の花が必要で実際には、2万株育てて、残り1万株は購入している。水やり、雑草取り、と結構体にきついで、130名の会員の出入りはある。市民祭りにテントを3つ借りて、会員有志が育てた花苗を毎年1500株販売している。
- 入会するための「ガーデナー養成講座」やバラの手入れの講座などもやっている。毎年受講生の内、7~8人入会する。受講した人は比較的長くいてくれるが、スポットで来た人はやめることが多い。
- 今は、「花の会」以外に地域活動で毎日出かけており、世間とは逆に妻に「少し減らしなさい」と言われるほど。



(イ) 現役リタイア

- 現在73歳で、仕事を65歳まで43年間ほど続けた。男性は、地域にデビュー

するのに壁がある。それまでは、会社をバックにしていた。組織の仲間もいた。肩書、名刺の世界で、収入を得ていた。これをすべて失うということ。収入を得ることで家族には頼りにされ、それがおやじの尊厳となっていた（敬われる）。こういうものがすべて無くなる。

- 昔会社では、通常女性は部下として働いていることが多かった。ところが地域は女性が中心の世界。会社では、女性との対話は少なかった。ところが地域では、女性たちにボロクソに言われ、女性がエラそうにしている（そういう女性の家庭を見ると、たいがい夫はおとなしい人：笑）。また、女性は、通常家族との関係に一生切れ目がないが、男性は、リタイアで過去を捨てる、断ち切らなければならない。地域活動をするためには早く過去を断ち切る必要がある。
- リタイアすると前述のように、男は捨てるものが多いが、逆に自由な時間というのが得られる。40年仕事をして年間2000時間くらい使ってきた（12ヶ月×4週×5日×<7時間+2時間>≒2000時間）として8万時間、ところが後20年生きるとすると（365日×10時間×20年=7万3000時間）同じくらいの時間が暇になる。この膨大なる時間をどのように生かすかである。

(ウ) 地域デビューのきっかけ

- 自分もリタイアしてすぐは、のんびりしたいと思ったが、せいぜい2~3ヶ月程度だった。それ以上になると怠惰になり、濡れ落ち葉になり、掃除するのに居ると邪魔と言われるようになる。メシ・フロ・ネルの世界になる。
- 自分の場合は、「何かしないと」と4つのことを始めた。
 1. ボランティア。ひばりが丘に住んでいるが地元との接点はない、そこで、合併で無くなっていた、自分の出身校のOB会を再開した。全国の一つの支部として80人ほどいる。
 2. 習い事として、詩吟と水墨画を始めた。今からやっているわけでうまくなるわけではないが、ボケ防止だ。年数回発表会があるので、その時は緊張するし、集中力を高められる。
 3. 運動では、「いこいの森公園」でラジオ体操をやっている。ラジオ体操も7種類くらいあって、全部やると40分くらいになる。月1000円で9時



から毎日やっている。このほか、スポーツセンターで週 1 回 300 円の運動をやっている。

4. 学習では、放送大学で 6 期 3 年くらいやった。心理学とか歴史。このほか、武蔵野大学やアジア大学の公開講座にも出かけている。今でも時間が合えば、探してでかけている。

習い事や学習をしても、お日様に当たらないと妻が言うので、運動もはじめた。同じころ、花の会のガーデナー養成講座のチラシを見て、妻が申し込んでしまった。このように、奥さんが申し込んでしまうなど背中を押す、あるいは、時には、数回くらいは、そこまでついて行ってあげるくらいのこととしないと男性が表にはなかなか出にくい。

(エ) 地域デビューの心がけ

- 男はプライドやエリート意識がある。実は、何でも知っているように思っているが何も知らない。過去を捨て、恥をかく覚悟が必要。前に進む。積極的な好奇心。しばしば過去の自慢話をしがちの人がいるが、耳を貸してくれる人はいない。我々は年金暮らしで、若い人の世話になっている。地域社会に



貢献すること、若い人のお手伝いをするのは当たり前である。地域に還元する。「明るく、楽しい」をモットーにしていれば、人が寄ってくる。もともと他人と話をするのが好きだったので、これが今を支えている。キミマロ風。毒舌も入れて、話術 50 年が今に活かされている。一人暮らしだとボケが早い。家族以外に毎日 5 人と話をするようにしないと。

- 奥さんのこれまでの生活のリズムを壊してはいけない。自分が家にずっといると、奥さんは、3 度の食事の支度をしなければならない。奥様が出かけていくのにぐずぐず言わない。3 食作らないですむよう、楽な気持ちにしてあげる。旦那さんが働いていたころは、昼は、残り物を食べたり、時には、友達と外食したりして楽しんでいたはず。お互いの生活リズムを認め合って、尊敬しあうことが大切。
- 自分は、今述べたこと以外にも、異業種交流会にも顔を出している。新宿に本部があって、7 人ではじめて毎月食事などをして 10 年経った。これは奥さんも一緒に出掛けて 14 人で食事をする。5 年目には、軽い海外旅行というこ

とで台湾にでかけた。充実した毎日を過ごそう！せっかく生きているのだから毎日を楽しもう！

- 田無カレッジの卒業生（H21年3月）で仲間もできて、毎月、ハイキングや食事などを行っている。正月には七福神めぐりもする。自分が幹事をしていたが、行くところがマンネリ化したので、今年から幹事を変えてやっている。

(オ) 情報の取得方法

- 公報、公民館だより、市民協働推進センター（ゆめこらぼ）、地域新聞、各種チラシ（市役所、公民館）・シルバー人材センター、暮らしの便利帳、インターネット（西東京地域活動情報ステーション）、各種地図

(カ) 設備

- スポーツセンター、きらっと、イングビル、コール田無、市民会館、公民館（6ヶ所）、図書館、地区会館、こもれびホール

(キ) 活動内容

- ボランティア活動、趣味・習い事、運動・スポーツ、文化活動・学習、友達グループ、家庭、旅

なお、(オ)～(キ)は、地域デビューにあたって、市内で情報を取得する方法や使える設備、活動にもいろいろあるということを示してくれたもの。